付属資料

用語解説

用語	読み方	解説
ア行		
遺構	いこう	考古学では建物跡や溝跡などの土地に残る不動産的な人間活動の痕跡のこと。建築史学では現存する古い建物のこと。
遺構表示	いこうひょうじ	史跡等の正しい理解を促すために行う史跡整備において、遺構の配置、規模、形状等の情報を遺構直上の盛土造成面に、平面的、立体的に表現すること。
石垣カルテ	いしがきかて	現存する石垣の台帳。石垣各面の石の積み方、高さや勾配、反りの有無、変形度の他に、各石の加工度、破損度などを記録し、今後の修理の基本資料とする。
遺跡	いせき	地球上に残る過去の人間活動の痕跡。遺構と遺物を主要な構成要素とする。
遺物	いぶつ	石器・土器などのように、人間が加工・製作したものや、運搬や交易などで人が関与した動植物や鉱物など、過去の人間活動による動産的な所産のこと。地下に埋没していたものと正倉院宝物のように地上で伝世されたものがある。
インクルーシブ社会	いんくるーしぶしゃかい	多様性を認め、すべての人が支え合いながらともに生活できる社会のこと。
インバウンド	いんばうんど	外国人が訪れてくる旅行。外国人旅行者。
SDGs	えすでいーじーず	Sustainable Development Goals の略で、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のこと。17のゴール・169のターゲットから構成される。
NPO	えぬぴーおー	Non Profit Organization の略。ボランティア活動などの社会貢献活動を行う営利を目的としない団体の総称。
大手	おおて	城の正面。
オープンスペース	おーぷんすぺーす	都市におけるゆとりのある空間。公園・緑地、河川、民有地の空地部分等の建築物に覆われていない空間の総称。
カ行		
搦手	からめて	城の裏手・裏門。
完全性(インテグリティ)	かんぜんせい	Integrity の和訳。資産の属性の全てが損なわれることなく包含されている度合を測るための指標。資産の価値を構成する必要な要素がすべて含まれていること、また長期的な保護のための法律等の制度が確保されていることなど、世界遺産に推薦される文化遺産及び自然遺産は、これらの条件を満たすことが求められる。
危機遺産	ききいさん	武力紛争や自然災害、大規模工事、都市・観光開発、密猟などにより危機に瀕している世界遺産のこと。重大な危機に直面している遺産については「危機にさらされている世界遺産リスト」に記載され、保護、修復の対象になる。
記念物	きねんぶつ	「貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で歴史上または学術上価値の高いもの(史跡)」、「庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で芸術上または鑑賞上価値の高いもの(名勝)」、「動物、植物及び地質鉱物で学術上価値の高いもの(天然記念物)」である文化財の総称。
近代遺跡	きんだいいせき	幕末から第2次世界大戦期における近代の歴史を理解するうえで欠くことのできない重要な遺跡。
近代化遺産	きんだいかいさん	幕末から第2次世界大戦期までの間に建設された、我が国の近代化に貢献した産業、交通、土木に関する建築物、構造物。
国指定(文化財)	くにしてい	文化財保護法に基づき、有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物のうち重要なものとして文部科学大臣が指定する文化財。なお、史跡名勝天然記念物のうち、特に重要なものは特別史跡名勝天然記念物に指定される。
国登録有形文化財	くにとうろくゆうけいぶんかざい	建築物、土木構造物及びその他の工作物(重要文化財及び文化財保護法第182条第2項に規定する指定を地方公共団体がやっているものを除く。)のうち、原則として建設後50年を経過し、かつ、「国土の歴史的景観に寄与しているもの」、「造形の規範となっているもの」、「再現することが容易でないもの」のいずれかの一つに該当し、文化財登録原簿に登録されたもの。届出制と指導・助言等を基本とする緩やかな保護措置を講じるもので、従来の指定制度(重要なものを厳選し、許可制等の強い規制と手厚い保護を行うもの)を補完するもの。
曲輪	くるわ	城郭において軍事的、政治的な目的で、自然地形を削平、盛土により改変して造られた平面空間。周囲には土塁や石垣および堀が廻らされる。複数の曲輪で構成されるのが一般的で、各曲輪の名称は丸を用いて、本丸、二の丸、三の丸や、方位を用いて西の丸、北の丸、機能をもとに山里丸、水手曲輪、形状から帯曲輪、腰曲輪などと称する。

用語	読み方	解説
顕著な普遍的価値 (OUV)	けんちよなふへんてきかち	Outstanding universal value の和訳。国家間の境界を超越し、人類全体にとって現代及び将来世代に共通した重要性をもつような、傑出した文化的な意義及び自然的な価値のこと。
虎口	こぐち	城郭の出入口の総称。
サ行		
作事所 (場)	さくじしょ、さくじば	天守や櫓、門、御殿などの建築工事の作業場。
狭間	さま	主に城郭の天守や櫓の壁面や塀などに開けられた防御用の窓穴。内側から外側に向かって丸形・三角形・四角形などの窓穴が開けられており、鉄砲や矢などを放つ際に使用された。
真正性 (オーセンティシティ)	しんせいせい	Authenticity の和訳。真実性とも言う。建造物や遺跡などの文化遺産が本当の芸術的、歴史的価値を保っていることを示す指標。世界遺産に推薦される文化遺産は、その修復にあたって、創建時と同じ形状、意匠、材質、構造、工法を採用することなど、多様な属性を通じて資産価値が保たれていることが求められる。
世界遺産委員会	せかいいさんいんかい	世界遺産委員会は、世界遺産条約を締結した国から選出された 21 ヶ国によって構成される政府間委員会。任期は 6 年と定められているが、現状は、より多くの国が委員国になれるよう 4 年に短縮されている。3 分の 1 の 7 ヶ国は 2 年に 1 回開催されるユネスコ総会で改選される。原則として毎年 1 回開催、世界遺産の登録の可否、危機遺産一覧表への記載・削除、遺産のモニタリングや技術支援、世界遺産基金の運用などを審議する。
世界遺産一覧表	せかいいさんいちらんひょう	世界遺産条約に基づき、世界遺産委員会が定めた登録基準に照らして顕著な普遍的価値を有すると認められた文化遺産及び自然遺産の一覧表。この一覧表に記載された資産が世界遺産である。
世界遺産管理者 (サイトマネージャー)	せかいいさんかんりしや	世界遺産の保存管理に係る意思決定を統括、牽引するとともに実務にも携わる者。我が国においては、地方自治体の担当者がこれに該当する場合が多い。
選定保存技術	せんていほぞんぎじゅつ	昭和 50 年の文化財保護法改正において、文化財の保存のために欠くことのできない伝統的な技術または技能で保存の措置を講ずる必要のあるものを文部科学大臣が「選定保存技術」として選定し、その保持者や保存団体を認定する制度が創設された。史跡等に指定された城跡等の石垣・石積遺構である文化財石垣の解体・修理等を行う石垣保存技術、伝統工法による古式京壁と漆喰壁の左官などの技術を総称した壁保存技術がある。
総構え	そうがまえ	城のほか城下町一帯も含めて外周を堀や土塁で囲い込んだ城郭構造で、総曲輪ともいう。ヨーロッパや中国の城壁に相当する。
層塔型	そうとうがた	何層にも重なった塔のような天守という意味で、天守完成期の様式。下層から上層へ、ほぼ一定の割合で幅が縮小し、外観の層(重)数と内部の階数が一致する。層塔型の発展段階を 2 期に分けて、一・二層が同じ大きさの「前期層塔型」と、一層から完全にはほぼ一定の割合で幅が縮小する「後期層塔型」がある。塔と異なり、各層の屋根を千鳥破風や唐破風で華やかに装飾する。
タ行		
登録観光地域づくり法人 (登録 DMO)	とうろくかんこうちいきづくりほうじん	地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。
特別史跡	とくべつしせき	城跡などの遺跡で歴史上または学術上価値の高いもののうち、重要なものとして文部科学大臣が史跡として指定したもののうち、特に重要なものとして文部科学大臣が指定したもの。令和 6 年時点で、全国で 63 遺跡が史跡に指定されている。
ナ行		
縄張	なわばり	築城における曲輪、建物の配置やその計画、または城下町の地割などの平面的な計画・設計のこと。
ハ行		
バッファゾーン (緩衝地帯)	ばっふあぞーん	資産の効果的な保護のためにその周囲に設けられる利用制限区域のことで、世界遺産の一部ではなく顕著な普遍的価値を保有しないため、世界遺産自体には含まれていない。世界遺産への推薦に際して、緩衝地帯の設定は必須ではないが、設定しない場合は、その理由を明示する必要がある。近年、周辺環境が資産に及ぼす影響

用語	読み方	解説
		への懸念が強まってきており、資産毎に的確な緩衝地帯を設けることが求められるなど、その役割は大きくなっている。
VR	ぶいあーる	Virtual Reality(仮想現実)の略称で、コンピューター上にCG等で人工的な環境を作り出し、あたかもそこにいるかの様な感覚を体験できる技術。
復元的整備	ふくげんてきせいび	今は失われて存在しない往時の建築物その他の工作物について、歴史的建造物の規模、材料、内部・外部の意匠・構造等の一部を変更して再現することや学術的な調査を尽くしても史資料が十分に揃わない場合に、それらを多角的に検証して再現することで、史跡等全体の保存及び活用を推進する行為。
プロパティ(資産)	ぷろぱてい	文化遺産及び自然遺産を構成する資産。これまでのコアゾーンという呼称が改められたもの。文化遺産の場合は個別の文化財や遺跡、自然遺産の場合は公園保護区や生態系保護区をさす。
文化観光	ぶんかかんこう	地域の歴史及び文化の体験を目的とする観光。文化遺産は保護するだけでは守れず、訪問者がその正しい意味と重要性を理解できるよう、文化遺産に積極的にアクセスできる管理手法をとることが必要である、という考え方に基づく。
ヘリテージマネージャー	へりてーじまねーじゃー	地域歴史文化遺産保全活用推進員。各地にのこる文化財を継承し、地域づくりに活用するため、価値のほりおこしや効果的な活用手法について学び・実践する人材のこと。兵庫県が全国に先駆けて阪神淡路大地震後の平成13年度から人材養成を始めた。
望楼型	ぼうろうがた	大屋根をもつ二重の檼の上に、金閣の最上階のような楼阁建築をのせた天守発生期の様式。望楼型の形式名称が付けられているが、物見や眺望を楽しむものではない。望楼型から層塔型へとわずか60年ほどで急速に発展していくが、望楼型の発展段階を2期に分けて、下層の檼と比べて規模の小さい望楼部を載せた「前期望楼型」と、下層の檼からほぼ一定の割合で幅が縮小する層(階)を重ねた望楼部を載せた「後期望楼型」がある。いずれにしても望楼型は大屋根に屋根裏階が設けられるため、外観の層数より内部の階数が1階多くなる。
本質的価値	ほんしつてきかち	建造物や遺跡などが本来持っている歴史上又は学術上の価値。
マ行		
埋蔵文化財包蔵地	まいぞうぶんかざいほうぞうち	埋蔵文化財(土地に埋蔵されている文化財を指す「文化財保護法」の用語)を包蔵する土地。
枳形	ますがた	城の出入口に方形の空間を設け、最前の門とその後方の門を二重に構えることで、防御性を向上させる施設。枳形とも書くが本計画では「枳」で統一
町屋	まちや	日本の古い町並みに見られる住居形態。通りに沿って軒を連ねて建ち並ぶ家屋群のこと。特に城下町の商いの場や仕事の場を兼ねた商人や職人の短冊形の家屋群のことをさす。町家とも書くが本計画では「屋」で統一。
ヤ行		
ユニークベニユ	ゆにーくべにゆー	「特別な(ユニーク)会場(ベニユ)」という意味で、美術館や博物館、歴史的な建造物など、会議やレセプションを開くことで特別感や地域の特性を演出できる会場のことを指す。
ユニバーサルデザイン	ゆにばーさるでざいん	障害の有無や年齢、性別、人種等にかかわらず、さまざまな人が利用しやすい都市や生活環境をデザインする考え方。外国人観光客や高齢者、障害者など、できるだけ多くの人々が観光を楽しむことができる環境づくりを行うもの。
ラ行		
リアクティブモニタリング	りあくていぶもにたりんぐ	何らかの脅威に晒されている世界遺産の保全状況について、世界遺産センターやUNESCOの他部門、諮問機関が行う報告のこと。
歴史的景観	れきしてきけいかん	人々の活動により、歴史的に形成された風土や物事をいう。本計画では、江戸時代以来人々の営みにより、形づくられてきた歴史と文化を内在する各時代を超えて受け継がれてきた景観をさす。